2018 年 11 月5日「奥浅草だより」第 15 号

山谷掘（さんやぼり） 奥浅草の歴史の穴場

山谷掘公園　昔、山谷掘という川があり、暗渠にした上を公園として整備したのが山谷掘公園です。隅田川付近から地方橋（じかたばし）まで 700 メートルにわたるもので、脇が道路になっています。下流は幅も広く、静かな桜の名所としても知られています。樹木が多く、朝倉文夫の彫塑像があり整備も行き届いているのに人影が少ないのに驚かされます。当初は、親水公園として水と遊べるおしゃれな造りだったのが、土地柄、洗濯をするとか水浴びをする人たちが増えてきたので、水を止めたそうです。その結果、人も犬もあまり寄りつかなくなりました。この山谷掘とはどのような過去があるのでしょうか。

山谷掘は江戸初期に造成　山谷掘は、江戸を荒川の氾濫から防ぐために特急で造成され、1621 年には日本堤の土手が完成しました。根岸から三ノ輪を通り今戸に至る、石神井川と隅田川を結ぶ水路です。灌漑用にも使われましたが、江戸時代には吉原に通うお大尽が河口の今戸から猪牙舟（ちょきぶね）に乗って通うなど、あたりは粋な料理屋が建ち並んでいました。またここまで舟で来て、馬や駕籠で吉原入りをする者もいて、舟宿も繁昌していたそうです。

明治−大正−昭和期の山谷掘　吉原遊郭は徐々に大衆化し、明治期には新橋や赤坂などの遊興の地が栄えてきて、山谷掘の吉原通いは衰退しました。加えて、1908 年には下谷・浅草・南千住町が水利組合を脱退。灌漑用水としての山谷掘の使命は終わりを告げました。これがドブ川化の始まりで、次第に汚わい船（し尿運搬船）などの溜り場となりました。東京湾を出て大島方面などで海洋投棄をしていたのです。

山谷掘の暗渠化　関東大震災を経て、東京の都市計画は一変し、橋梁も増えましたが河川の埋め立てや暗渠化が進みました。洪水対応の雨水のみの山谷掘の暗渠化は、１９７６年から第１期工事が始まり、１９８６年からの第２期工事で山谷掘公園が完成しました。2019 年３月完成の補修工事が終われば、更なるイメージアップが図られることでしょう。

～・～

この「奥浅草だより」は『奥浅草　地図から消えた吉原と山谷』の発行後話題を拾って不定期に発行しております。

サノックスのホームページでもご覧になれます。　http://www.sanox.co.jp

佐野陽子・江原晴郎・森下恒子